

2011年10月10日

10月5日と7日に開催した在学生対象の説明会資料および当日の質疑応答について、
以下のとおりお知らせします。

1. 2012年度実験演習料、各種補助の取り扱いについて

修士課程・博士後期課程ともに学費として実験演習料を徴収していますが、このたび、学費の主担当箇所である教務部から、実験演習料の基本的な考え方が提示されました。

《実験実習（演習）料の基本的な考え方》

科目・カリキュラム運営を円滑に実施するために、必要となる消耗品等にかかる費用を授業料とは別に、学科・専攻や科目毎に「大学が」「一律に」「予め」徴収する。

- ・在籍学生からは一律に同額徴収していることから、学生ごとに支出額が異なることは公平性の観点から望ましくない。
- ・科目等の履修上発生する費用に充てられるべきものであっても、「大学が」「一律に」「予め」徴収する必要のないものについては、積算根拠から外し、実費費用をその都度個別に徴収すればよいと考えられる。

この基本的な考え方に基づき、日本語教育研究科においても、現在の実験演習料についてあらためて検討いたしました。日本語教育研究科における現在の実験演習料の徴収額は以下のとおりです。

- ・修士課程：学期ごとに 40,000 円
- ・博士後期課程：学期ごとに 10,000 円

一方、徴収した実験演習料を原資として、日本語教育研究科では独自の各種補助を行ってきました。関係学会への参加に必要な諸経費を補助する「学会参加費補助」や研究指導を目的とした合宿に参加する場合に必要な諸経費を補助する「研究指導合宿参加補助」がこれにあたります。これらの補助は、参加の有無で学生ごとに支出額が異なりますので、上記の基本的な考え方によると実験演習料の使途としてはふさわしくないこととなります。

このほかにも演習で使用する消耗品や用品など、これまで実験演習料を原資として様々な使途に支出してきました。今回、それらの項目ひとつひとつについて、基本的な考え方に照合し、チェックを行いました。その結果、2012年度実験演習料について、以下のとおりとすることとしました。

2012年度実験演習料

- ・修士課程：学期ごとに 21,000 円
 ※積算根拠：印刷製本費 9,400 円、消耗品費 4,000 円、図書資料費 5,500 円、賃借料（リ
 ースコピー機）1,100 円、委託費（PCメンテナンス）700 円、修繕費 300 円
- ・博士後期課程：徴収しません。

これに伴い、日本語教育研究科独自の補助である「学会参加費補助」と「研究指導合宿参加補助」について、2012年度より廃止します。なお、留学センターによる補助（「私費外国人留学生ゼミ旅行・学会参加費補助」）や研究推進部からの補助（「国際会議論文発表補

助費」、「複写代等補助費」いずれも博士後期課程対象)については、変更ありません。

2. TA (教務補助)、研究補助者等の勤務について

日本語教育研究科や日本語教育研究センターでは、TA (教務補助) や公開講座の司会、アシスタント、オンデマンド講座メンター、研究補助者など、様々な場面において業務に就くことがあります。これらの業務の対価は賃金として毎月の勤務報告書に基づいて支払われますが、法令により賃金は毎月定められた支払日に直接本人に支払うことが義務づけられています。

これまで、勤務報告書が複数月分まとめて提出されることが見受けられました。上記のとおり、法令で定められていますので、業務を行うごとに勤務報告書に記載し、必ず毎月末に事務所に提出してください。

3. 博士後期課程に標準修業年限を超えて在籍した場合の修了日について

大学の規定により、博士後期課程を標準修業年限内で修了する場合は、3月修了となる場合は3月15日、9月修了となる場合は9月15日と定められています。

一方、博士後期課程に標準修業年限を超えて在籍した場合は、研究科運営委員会において博士学位申請論文の審査を行い、合格判定がなされた日をもって修了とすることが定められています。通常、日本語教育研究科では6月に学位申請論文を提出した場合は7月の研究科運営委員会で判定を行い、12月に学位申請論文を提出した場合は2月の研究科運営委員会で判定を行います。

4. その他

2011.10.07

日研生対象・実験演習料説明会におけるQ & A

Q1:学会参加費補助等への平均支給額と受給率について教えてください。

A1:以下のとおりです。

2010年度	課程	学会参加費補助			合宿参加費補助		
		平均支払額	受給者数	受給率	平均支払額	受給者数	受給率
春学期	修士	¥29,955	33	37.5%	¥8,895	52	59.1%
	博士後期	¥29,310	11	19.0%	¥9,810	4	6.9%
	計	¥29,793	44	30.1%	¥8,961	56	38.4%
秋学期	修士	¥27,833	24	25.5%	¥8,376	38	40.4%
	博士後期	¥27,684	10	17.2%	¥9,052	15	25.9%
	計	¥27,789	34	22.4%	¥8,568	53	34.9%
年間	修士	¥29,061	57	31.3%	¥8,676	90	49.5%
	博士後期	¥28,536	21	18.1%	¥9,212	19	16.4%
	計	¥28,920	78	26.2%	¥8,769	109	36.6%

Q2:補助金は今年度までは出るということですか？

A2:今年度（2012年3月）までは出ますので、それまでに申請してください。

Q3:9月入学の場合、通常は9月21日～9月20日まで申請できましたが、今回の改訂は2012年4月に一斉に適用されるということですか？

A3:大学全体で一斉に見直したこともあり、今回の改訂は4月入学の方も9月入学の方も2012年4月に一斉適用となります。なので、日研独自の補助金申請は2011年度（2012年3月）までとなります。

Q4:2012年度実験演習料の積算根拠にある「消耗品費:4,000円」とは、具体的に何をさしていますか？

A4:演習の授業において、全員で共有して使う物品に使用します。なので、演習の登録者数に応じて、各担当教員に配分します。

Q5:これまでの実験演習料40,000円から21,000円へ減額されるのは、具体的に何の分になりますか？

A5:主に日研補助として独自に行ってきた「学会参加費補助」や「研究指導合宿参加補助」の分ですが、それ以外にも基本的な考え方にそぐわないものは外しました。

Q6:留学センターの「私費外国人留学生ゼミ旅行・学会参加費補助」の申請は事前に申請が必要ですか？また、どれ位前に申請が必要ですか？

A6:原則として、補助金の申請は事前申請となります。ただし、領収証や航空券の半券等、事後に入手するものについては、事後に提出してください。1週間前までには事務所に相談してください。

Q7:「勤務報告書」はどこで入手できますか？

A7:管理者である教員から、または日研事務所でお渡しします。

以 上